

多摩区地域デザイン会議 結果概要（令和5年度）

1 テーマ

「公園緑地を支える区民協働の取組」

多摩区は、豊かな自然環境を有し、生田緑地等の緑の拠点においては、区民協働による保全管理の実施と多様な活動が展開されています。一方で、区内の身近な街区公園等においては、高齢化や担い手不足など協働による継続的な活動をする上での課題も生じています。

今回の地域デザイン会議では、多様な主体が公園に関わり、連携した活動を地域に展開していくための取組について、「管理運営協議会・公園緑地愛護会合同連絡会」と同時開催し、第1部は公園の管理団体を対象とした各種説明、第2部は地域デザイン会議を兼ねた意見交換等を行いました。

2 開催日時等

日 時：令和5年7月31日（月）15時～16時50分

場 所：Anker フロントウン生田 アリーナ

参加者：71人 管理運営協議会・公園緑地愛護会、公園で活動している団体、地域でボランティア活動を行う団体、地域活動を支援する団体、公園や地域活動に興味がある団体、公募による参加者

傍 聴：2人

3 内容（議事）

(1) 公園の管理活動を取り巻く現状・課題の説明

(2) 公園での取組についての事例紹介

- ・多摩区ソーシャルデザインセンター
- ・三田第4公園緑地愛護会

(3) グループごとに意見交換

- ・意見交換のテーマ「みんな（様々な立場、年齢）に公園の活動（清掃等）に参加してもらうためのアイデア（自らできること、みんなで協力してできること）を出し合い、公園維持管理の持続的な活動を考えよう」
- ・13グループに分かれて意見交換を実施
- ・各グループ参加者5～7名＋進行役1名（市・区職員、受託事業者）
＋進行補助役1名（多摩区ソーシャルデザインセンタースタッフ）

(4) 発表

(5) 相談・交流 ※自由参加

4 各グループで出された意見のまとめ

2～18ページのとおり

グループ 1

子どものための安全管理

- ・子どもが遊びを通して育つ大切な場。“安全”などをテーマに管理をしている方との協議の場があれば
 - ・公園の安全管理の現状把握が必要 → 目的などの確認
 - ・現状は、子どもが遊ぶ上で制限が多い → 制限のゆるい公園に集まってしまう、夜も
 - ・施設管理のデジタル化 → QRコード利用 等
 - ・セキュリティカメラの設置
 - ・安全・セキュリティ面
 - ・施設管理（バスケットは近隣迷惑）
- ⇒公園利用者と地域の理解・コミュニケーションが必要

地域との交流・つながりの場へ

- ・公園は地域の人と人とのつながりの場
- ・保育園など地域の親子との交流の機会に
- ・保育園の子どもたちが公園に行くまで袋を持ってゴミ拾いをしている
- ・近隣の方の協力が必要
→増やすためには
 - ・保育園などを通じて交流を深める
 - ・保育園で清掃をする

その他

- ・SDGs パートナー事業者への声掛け
- ・近くの公園の清掃等に参加する
- ・管理費用の補助（用具やお茶代 等）
- ・公園利用者を増やす仕掛け



グループ 2

地域の人に知ってもらう・意識を変えてもらう

- ・活動の場が分かるようにする
- ・気軽に手伝える場にする
- ・清掃等の活動については、日程の呼びかけを行い参加しやすくする
- ・チラシ作り
- ・他団体と交流して輪を広げる
- ・ホームページや SNS。課題など
- ・緑化センターでの自団体の活動に PR や一緒に活動する人を募集する
- ・個人の力からの脱却
- ・各種地域の学校に共有。クラブ活動などに入れ込む
- ・「自分の場所」であると認識する必要がある
- ・すべきことを項目ごとに出し、リスト化 → 自分ができることは何か考える

活動に参加してもらう

- ・季節等の節目に様々な活動を計画して参加しやすくする
- ・楽しむ取組が少ない（子どもが参加できるもの）
- ・ニヶ領用水や多摩川などの散歩など、参加しやすい活動を
- ・川に入って遊ぶイベント
- ・種や苗の販売やプレゼントを子ども向けに。緑化センターと協力して実施する
- ・スタンプラリーなど、見て回るイベントを開催する。遊び団体やお花が好きな人と実施する



グループ 3

公園の活動を知ってもらう

- ・公園管理について学べる（会える、聞ける）機会を作る
- ・公園での活動について知る機会を作る
- ・公園の掲示板の工夫（禁止事項だけでなく）
- ・管理作業をイベント化して呼びかける



公園管理でできることから参加する

- ・ゴミ拾い、水やりなどできることから参加させてもらう
- ・公園管理で必要なこと、大変なこと 等

地域の人と交流するきっかけづくり

- ・多摩区の保育園と連携し、イベント的にゴミ拾いをし、定着につなげる
- ・地域の方々とつなげるきっかけを作る
- ・SDC（高校生）の両親世代も
- ・管理者と利用者の交流。どんな人が、どんな思いで管理をしているのか

高齢のためできることが限られる

- ・高齢化のため清掃活動をする人が少なくなっている
- ・砂場に犬や猫の糞がある → 網で対策
→ ・高齢の方が多く、当番制はきつい
・毎朝確認し清掃、気が付いた時も清掃しているが、使用する人もさらに有無を確認して使用してもらいたい

助けが少ない

- ・手伝ってくれる人が少ない
- ・ボランティアが少ない



将来の公園のあり方

- ・保育園・幼稚園・小学校のPTAに公園管理の現場に参加してもらえないか（維持・管理だけでなく）
- ・協議会や愛護会に参加していないテーマコミュニティに参加してもらうために、中間支援組織（SDC）に頑張ってもらいたい
- ・少し広いエリアのテーマコミュニティを立ち上げる
（例）コミュニティガーデン → のぼりと園芸部 等

- 2050年（27年後）の公園のイメージを絵にする



グループ 4

課題

- ・高齢化（平均 75 歳）
 - ・会員の減少
 - ・高齢化が進み管理が厳しい（草刈り、グラウンド整備）
 - ・グラウンドの整備。ゴミ拾いから
 - ・トイレなどが整備されていないところがあるので、もっときれいにしたい
 - ・草刈、掃除が大変
 - ・草刈は範囲が広く人間的に負担が多くなっている
 - ・落葉が大変
 - ・イベントの調整が多く、大変になっている。クレームの処理等も
 - ・ボランティアの曜日が限られている
 - ・中高生の利用が少ない
 - ・公園の利用法
 - ・「掃除をしよう」はハードルが高い
- ⇒ ・地域の人（顔）をつなぐことをしっかりやっていく
- ・とはいえハード系の整備も

まずは小さいハードルから

- ・利用している方だけの集まり
- ・小さいことをたくさん実施する

イベントでまずは知ってもらう機会と交流の機会をつくる

- ・多世代の交流
- ・様々な世代を対象としたイベントの開催
- ・多世代が集まれるイベントの開催
- ・子どもから大人までを対象にしたイベントの開催
（例）スポーツなどを一緒にして交流関係を深める
- ・様々な地域が集まるイベント
- ・中高生の利用が少ない
→ イベントの開催（夏なら水鉄砲大会 等）
- ・フードドライブの食品を公園で集める
- ・いらなくなったものを公園で集めて売る
- ・（公園でイベントを企画してくれる団体があれば）保育を活かした活動
- ・保育フェスを開催。公園を利用する近隣の保育園が集まりイベント（各園でブース出展）
- ・ホールインワンゴルフ

- ・スマホ教室を学生と一緒に。互いに WinWin
- ・多摩 SDC の 4 月のイベント

↓

地域の他の人と一緒に活動する

- ・保育園職員や保護者による清掃活動
- ・近隣の学生がボランティアに出向く。ゴミ拾いや草木の整備等
- ・小さい子は拾うのが好き
- ・現在、放課後に通学路にあるツツジの整備を行っている → 公園の整備も行う
- ・季節によって清掃の内容・量が異なる

その他

- ・掃除用具などの必要なものは助成金で
- ・助成金の申請を行う
- ・グラウンドゴルフの人たちが清掃してくれた



グループ 5

公園の利用について

- ・地域のお祭り等で使えるチケットを草むしり等の参加者に配る
- ・トイレのある公園は利用しやすい
- ・乳幼児向けの公園があるとよい
- ・稲田公園のように自然を感じられる公園は利用しやすい（保育園ではできない体験ができる）
- ・使用状況の表示板があるとよい

公園の新しい利用方法

- ・稲田公園に常設の倉庫を置きたい
- ・常設のプレーパークを作りたい
- ・ターザンロープがあつたらよい
- ・ドッグランがあつたらよい

交流の機会を作る

- ・花と緑の交流会で参加を呼びかける
- ・各団体の会員貸借システムを
- ・市民団体向けの交流会を開催

新しい担い手を呼び込む

- ・地域の子ども会に呼びかける
- ・子どもが喜ぶイベントと抱き合わせて草むしりなどをする
- ・観察会などのイベントの参加を外部の人に呼びかける
- ・公園管理団体の高齢化対策として、もっと若手の市民団体と協働する
- ・大学に呼びかける



グループ 6

多様な世代の参加

(現状・課題)

- ・高齢化。若い人が入って来ない
- ・仕事との両立が難しい
- ・会の孤立
- ・個人でも活動できる仕組みがほしい

(解決策)

- ・会に入らなくても自主的な活動を行う
- ・土日祝の活動

公園の現状

(現状・課題)

- ・ゴミのポイ捨て、ゴミが増えた
- ・公園の管理が不足している

(解決策)

- ・西菅公園の管理委託会社がボランティア活動に対してポイントを付与する仕組み
- ・里山で竹を活用する

効果的な情報の発信

(現状・課題)

- ・掲示板を活用する
- ・子ども会に入らない人が増加し、若い人に情報が届かない
- ・管理をどこがやっているのか分からない

(解決策)

- ・定期的に朝清掃をする等参加しやすい環境を作る
- ・若い人が SNS で発信する
- ・団体同士で機材を貸し借りする仕組みを作る
- ・東京はボランティア、子どもが多い

行政の問題点

- ・川崎市は取組が遅れている



グループ 7

現状・課題

- ・若い人はいるが、共働きや子育て、塾、学校で時間がない
 - ・戸建てがアパートに変わり学生が入るが、地域はどうか
 - ・どうやって若い人とつながるか。ボランティアよりつながり
 - ・杉山神社で祭りがあるが、みこしを担ぐ人がいない
 - ・継続性。どうやっていくか。
 - ・みこしの担い手来てほしい
- ⇒ ・近所の方から3回頼まれたら断らない
- ・「仕方ない」それも大事
 - ・帰属意識 → 地域還元

解決策

- ・ネットワーク会議 中学校（生田出張所）
- ・子どもから入って、親に展開する
- ・小中学校、部活動単位だと参加しやすい
→既につながっているが、新たな視点が大事
- ・継続するために法人化。段階を踏んでやっていく
- ・団体には目的がある。一つではなくつながりあって目的を達成
- ・集まることで課題が分かる
- ・個人が個別に参加するには



グループ 8

多世代の参加の仕組み

- ・花植え→ 生命の大切さを体験できる
- ・花壇に子どもと一緒に植える → 子どもが管理に参加
- ・孫を連れて来る
- ・学校行事にする（小中学校）
- ・学校に協力を呼びかける。教科に入れる
- ・近くの施設との連携（大学、中学校、小学校）
- ・スタンプ（ポイントカード）を集める
- ・イベントをする。ゴミ拾い、自然探検 等
- ・公園を利用しているお母さん、お父さんに声掛けをする
- ・子どもたちが作った作品の展示
- ・防災訓練を公園で開催。家族単位で参加してもらえる
- ・エンタメ化、コンテンツ化する。イベントにする
- ・多摩 SDC の公園管理への参加
- ・大学生のネットワークを活用する
- ・サークルによる公園でのイベント開催
- ・落ち葉（ケヤキ）を堆肥として地域に分ける

地域資源の活用

- ・商店街・企業との連携。自分たちのまちをきれいに
- ・障がいがある方との連携・協力。社会的なリハビリ
- ・ホームレスの方の社会復帰との連携
- ・イベント後のお茶会等で交流（10分だけでも）
- ・近くの企業との連携

若い人を集めたい

- ・現状、会は 70～80 歳代がほとんど。若い人が少ない
→ インセンティブを設ける
- ・若い世代に公園を利用してもらう

その他

- ・公園でできることを情報発信する
- ・歴史など、地域のことを大切にもらえる情報を発信する
- ・町内会掲示板で募集する
- ・農家に講習に協力してもらう

課題

- ・イベントは単発で終わりそう
→継続性が大切
- ・街路樹の低木を刈り込む機械を扱える人がいない
→業者が無料で講習



グループ 9

【工夫していること・現状】

地域の課題

- ・高齢化。
- ・高齢化。今は何とかなっているが先を考えると不安
- ・男性の参加が少ない。草刈には男性も参加
- ・担い手不足
- ・ボランティア頼り
- ・コミュニケーションが弱い
- ・工夫している点：自治会にあるものを配布する

身内の集まり

- ・人が集まりにくい
- ・誰が来るか分からない。声をかけた人が来る
- ・ボランティアを頼っている
- ・若手の受入

【アイデア】

みんなのできること

- ・集会所で日本女子大とカフェを実施している
- ・スポーツを活用して人を集める。小さい公園でグランドゴルフ等

防災訓練

- ・公園を利用して、小規模（20人）な防災訓練を実施した
→防災訓練は人が集まりやすい

イベント

- ・出張講座を開く。体操、運動系の講座
- ・子どもたちが参加できるイベントを開催する
（例）・ラジオ体操。60人の子どもが集まる（生田6丁目公園）
 - ・盆踊り大会。40年以上行っている
 - ・朝、盆踊りの練習（30人程度）＋ラジオ体操
 - ・神社でのイベントは人が集まる。子どもが集まりやすい
 - ・老人クラブでグランドゴルフ、ゲートボール週3日（月・水・金）開催
 - ・フロントアウンで土渕お祭り（500人参加）。他の町会ともコラボできるとよい
- ・道路公園センターに管理を任されているのでやりやすい
- ・団地の大階段の清掃を理事がやっているが大変そうなので住民も参加したい

花壇の活用

- ・公園で花壇をつくりたいという人がいる

できるといい取組

- ・フロンターレと連携することで広がり生まれる
（例）ダンス、体操、サッカー 等
- ・寺尾台第2公園で何かできたらよい
- ・スポーツなど
- ・老若男女が一緒に参加できる運動会、祭りの開催
- ・公園でグランドゴルフをする時に、どのように始めたらよいのかアイデアを知りたい



グループ 10

高齢化と人材の問題

- ・役員の高齢化で動ける人が少ない
- ・小学校・幼稚園との連携
- ・若い人を取り込むのは難しいので、学校・団体等に働きかける
- ・青年部（自治会や地域のサークル）に祭りを盛り上げてもらう
- ・保育園は職員に負担がかかる

公園管理に関する取組

- ・お祭りをする → 落ち葉拾い、どんぐり拾い等
- ・みんなでタケノコ掘り → 竹林の管理
- ・公園の土手を区切って花壇を作り、近所に分配し、四季を通じて花を育てる
- ・自然に触れる
（例）観察会、どんぐり拾い、草カゴづくり 等

活動周知に関するイベントの開催

- ・公園でのイベント → コミュニケーションづくり
- ・今後、活動団体の存在が分かるイベントを続けたい
- ・保育園児と一緒にゲームを楽しむ
- ・三田台祭りは子どもからお年寄りまでが参加する（10月1日）

より良い公園づくり

- ・立ち話ができる場所（屋根等）があると、より良い公園になる
- ・大人の利用が少ない → 大人向け遊具の設置
- ・公園利用のマナー（時間）を守る
- ・公園同士、緑地同士の交流会の開催



グループ 1 1

継続的な維持・管理

- ・個人でできること（例）雑草用のゴミ箱を新しく作る
- ・焚火ができる公園を作る
- ・単発のイベントではない、継続的な活用・活動に → 資金を支援する（1～3万円/回）
- ・管理運営協議会の課題改善計画に報奨金を出す
- ・エリア半分は管理なしの比較できる地区とし、人員不足を不要とする（今は自然への介入のし過ぎでは）

人員不足の解消

- ・面白い企画があれば人は自然と集まる。面白い企画をどう出すか → アイデア会議 等
- ・地域の「活用アイデア希望会議」を現地で開催
- ・皇室や著名人のお手植え植物があれば、求心力が高まる → 目的別の公園
- ・清掃後に子どものお楽しみ会を開催している
- ・横のつながり。他の自治会に吸収してもらい、合同開催
- ・安全作業確保のためにはむやみに人員増を考えない。最低限の目標達成で満足する

若い世代の参加

- ・小中学校で「家庭の地域活動」を課題とする
- ・活動を一覧化し、家庭で「参加して来てください」という課題を出す。ラジオ体操のように

広報活動

- ・効果があるのは口コミ。口コミ能力の高い人を報奨する
- ・現状として、清掃、草刈は回覧通知
- ・町内への広報が不足している。人材不足等
- ・新しく引越してきた世帯への声掛け
- ・ピンポイントで知り合う。イベントに参加してくれた人に声掛け
- ・役員のパワー不足。共有感がある人を役員にする



グループ 1 2

広報

- ・ 広報活動に力を入れる
→ QR コードなどで活動内容が分かる動画を見られるように
- ・ 公園活用の周知が必要
- ・ Anker フロントウン生田で各公園の広報活動を
- ・ ガイドブックを、区役所、Anker フロントウン生田など、様々な場所に配架

イベント・楽しみ

- ・ イベントと同時にフードドライブの活動を行う
- ・ 清掃を楽しむ（コスプレなど）
- ・ 清掃活動をしたご褒美に Anker フロントウン生田で様々な講座が受けられる
- ・ 公園でランチ大会
- ・ 夏祭りが始まる前に掃除や草刈をし、参加者には特典をあげる
- ・ 活動後にコーヒータイム
- ・ 活動にインセンティブを設ける → 次につなげる
- ・ 健康ポイントなど他の分野につなげる
- ・ 担い手の誘導 → 周辺の活用
- ・ Anker フロントウン生田の子ども向けイベントの会場で、草刈のレクチャーをする

持続可能に（人材不足解消など）

- ・ 脱炭素税で収入を得る、保全作業に代金を支払う
- ・ Anker フロントウン生田で練習をしているアカデミーの選手たちが清掃活動に参加
- ・ 若い力（大学生等）の活用 → ボランティアに利益
- ・ 会員の募集
- ・ 周辺団体との連携
- ・ 人員のバランスも重要。道具・ノウハウ等

その他

- ・ 現場の声を届ける



グループ 1 3

緑地管理に知識のある人が必要

- ・会員が何をしたらよいか分からない
- ・遊びの区画を決める
(例)・ボール遊びをしてよい区画
 - ・小さな畑作り。近隣の方から知識を学ぶ → 年齢を越えたコミュニティ
- ・美化運動の PR 活動
- ・コミュニティガーデンにしてみる
→関わる人を増やす
→一人、プロを作る（樹木、花、枝の剪定時期等、活動を継続するにはその人にマニュアルを作成してもらう）
- ・他の緑地団体との情報交換

利用者の声が届く運営

- ・利用者の声が反映されていない
- ・子どもたちの公園利用に規制があり、できる活動が少ない
→もっと開けた公園づくり
- ・公園利用者アンケート、ヒアリング、意見交換会を定期的を実施
- ・公園に目安箱を設置し、意見を集める
- ・公園管理事務所へ要請・有効利用
- ・カメラ、マイクの設置
- ・設備保全をする方が少ない
- ・若手不足

ゴミの回収（持ち帰らないといけない）

- ・看板で注意する
- ・ゴミ回収（メンバーが持ち帰り自宅で処理）
- ・カメラを付ける
- ・ゴミ回収場所に置いておけるようにする
- ・回収ボックスの設置
- ・三角緑地に水道がない



その他

- ・活動した証の支給（例）お昼代
- ・地元企業のスポンサー（公園に合った企業の看板の設置。収益を公園の維持費に充てる）